

防災対策の充実を求める請願書

提出 令和7年8月12日

志摩市議会議長 中村 孝司 様



紹介議員 小河 光昭

請願者

〒517-0703

志摩市志摩町和具314-1

志摩小学校 PTA

志摩市PTA連合会 会長

西世古 真一

〒517-0209

志摩市磯部町恵利原1300

磯部中学校 校長

志摩市中学校長会 会長

加田 宏樹

〒517-0209

志摩市磯部町恵利原1275

磯部小学校 校長

志摩市小学校長会 会長

谷口 剛

〒519-0505

伊勢市小俣本町3 小俣町合同会館内

三重県教職員組合南勢志摩支部

副支部長

出口 晴之

請願の趣旨

子どもたちの安全・安心を確保するため、巨大地震等の災害を想定した防災対策の充実をはかるよう市議会において本請願を採択いただき、国の関係機関に意見書を提出いただくようお願い申し上げます。

請願の理由

2025年3月31日、南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループの報告書では、南海トラフ巨大地震が発生した場合、想定される死者数は最悪の場合29万8000人、津波によるものが最も多くなると予想されています。防潮堤の建設や津波避難タワーの整備など、迅速な避難にむけたとりくみがすすんだ結果、想定では死者数が前回の予想32万人から8%ほど減少しています。しかし、この想定数をもっと減らしていくことが必要です。

志摩市においては、南海トラフ地震が発生した場合、令和3年に志摩市が作成した津波ハザードマップによると、避難行動が困難となる「津波浸水深30cm」の到達時間は、最短8分（大王町波切）で、また、居住地域における地区の最大津波高26m（志摩町越賀）という津波の襲来が予想されています。

2022年12月現在、三重県においては、公立小中学校の全体の25.1%にあたる124校の小中学校が、県の公表する津波浸水想定区域内に立地し、うち108校は避難所に指定されています。志摩市では、津波避難所として13校中10校（小学校6校：うち1校は福祉避難所、中学校4校）が指定されていますが、3校（志摩小学校、志摩中学校、浜島中学校）が津波浸水想定区域内に立地しています。これらの学校においては、避難訓練が繰り返しおこなわれ、自分の命は自分で守ることを目標にとりくんでいますが、避難路の整備など財政的に支援が必要です。

また、避難所における防災関係施設・整備などについては、年々対策をすすめていただいておりますが、自家発電設備や屋内運動場の多目的トイレの設置や空調設備のさらなる設置などが求められ、今後も継続した対応が必要です。

災害は、いつ発生するかわかりません。避難所開設・運営をおこなうにあたり、それぞれの自治体が施設やスペース、資材、人材を十分に確保するためにも、国からの財政的支援の充実が不可欠です。また、多様な性やプライバシーに関する課題への対応、外国人、介助・介護が必要な高齢者、障がい者、女性、乳幼児等への配慮など、改善すべき課題もたくさんあります。過去の災害に学ぶとともに、安心して被災者が避難できるよう、国の責任において、防災に関わる施策がさらに充実されることを強く望むところです。

以上のような理由から、巨大地震等の災害を想定した防災対策の充実をすすめることを強く切望するものです。